

小平在住。在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ31

母として そして 小児科医として

辻 千秋さん

(ちあきこどもクリニック院長
千秋会理事長)



耳を傾けることがモットー

聞きたいことを医師に聞けずにもんもんとした気持ちで帰った経験をした人も少なくないだろう。

「知らないことは当たり前。医療の知識があったら来院しなくて自分で解決するでしょ？私は医療分野では玄人でも、他の分野では素人よ！私は知らないことは何でも聞く様になっているの！だから何でも聞いてほしい」と語るちあき先生は、患者さんの話に優しい笑顔で耳を傾け、受け入れてくれるので、小さな子どもが具合を悪くし心細いお母さんでも、安心・信頼して聞きたいことが聞け、納得して子どもの病氣と向かい合える。

医局勤めから専業主婦に

正しい医療知識を得て、自分自身や家族に冷静に対応したいという気持ちから医療の道を志した。始めは精神科を目標していたが、これから

の未来社会へ、希望に満ち溢れた子どもたちを病から救いたい！という気持ちから小児科医となった。

医局勤めの傍ら出産を経験し、子どもは保育園に預けてまた勤めた。しかし「小児科医として、子育てをせず患者さんの気持ちかわかるのか？」という思いから、お子さんが3歳の時に専業主婦の道を選んだ。自分の子どもと向き合って子育てし、育児の大変さ、ママ友達との交流、PTAの参加など勤務医では知り得なかった経験に、視野が格段に広がったそう。そして4年後に開業に至ったが、その経験は現在もお役に立っているという。そして「子育てを経験せずして、小児科医として適切なアドバイスはできなかったと思う。」と振り返った。こういった背景が、冒頭にも述べた、母親が安心して相談し、信頼できる理由だろう。

これから

7月より病児保育室をスタートさせた。始めは病児保育に対し、子どもを犠牲にしてまで働く手助けの様に思える気が進まなかったという。しかし、病氣の際に無理をして保育園に預けられている現状では子ども自身が幸せではない。病氣の時には病氣としてのケアをしてこそ子どものためになると考えが変わっていった。ここでは、医療の知識も勉強している子育て経験のある保育士が看てくれるので、安心して預けることができるだろう。ちあき先生は取材中も終始笑顔で話してくださったのがとても印象的だった。

女性と子どもの貧困①

「非正規雇用が貧困を生む社会」

「単身女性の3人に1人が貧困 母子家庭では57%」といわれて、リアリティを感じる人は一体どのくらいいるのだろうか。見えづらいう状況の中で、誰にも相談できず追い込まれてしまっている女性たち。いま私たちが置かれている状況を、片山かおるさんにうかがいました。

——私としては2年前の12月に朝日新聞デジタルに掲載された記事がとても衝撃だったのですが……。

片山 数値的には現在もこのくらいだと考えていいと思います。さらにいまは生活保護費の引き下げなど、悪化する懸念材料も。特に母子家庭が一番影響を受けることになります。その背景には非正規雇用の問題があり、年収も多くが200万円以下という非常に厳しい状況です。

——実は私も非正規で、同じ仕事をしているのに「なぜ？」と憤りを感じています。片山 もともと女性は男性より所得が低く、出産後、再就職を希望してもパートやアルバイト。現在の様な社会状況が続くならば、やがて職を失いホームレスとなる場合も予想されます。

——企業にとって都合な非正規雇用その年収差は40代で2倍以上になるといわれています。いまは何とかなっている人ももつと危機感を持って、将来を考えていかななくてはならないのでは……。片山 民間だけでなく、行政も非正規雇用や民間委託が増えています。まずは自治体から変わることが大事だと思いい、正規雇用を増やすことはもちろん、公契約条例を作って最低賃金より高い賃金を保障したり、安さを競う競争入札ではなくできるだけ総合評価での入札をお願いし

ています。

——生活保護費の問題にも取り組んでいきますよ。

片山 一番問題なのは受給者自身が保護費の引き下げを知らずにいることです。リーフレットを配ったり、学習会も開催しています。生活保護費の引き下げは、最低賃金の引き下げに直結しますし、子どもの教育の格差や親から子への貧困の連鎖にも繋がっていきます。

——本当に親世代の負の遺産を次世代に残すことはあってはならないと思います。子どもの貧困に関しては、ぜひ次回またお話をうかがわせてください。片山 こちらこそ、よろしくお願ひいたします。

片山かおる

生活保護費の大幅削減に反対する三多摩アクションや「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークなどに関わる。

<お問合せ>

Tel&Fax : 042-316-1511
office@katayamakaoru.net

小平市の相談窓口

女性相談: 042-345-2415
(月~土 10:00~16:00)

子育て相談: 042-345-2416
(月~土 9:45~17:30)



女性限定！

おしごと応援講座「自己表現力を磨く」

12月7日、14日、21日、いずれも午前10時から中央公民館で開催します。

定員30名（申込制）

仕事をしたいと思っても、何から始めたらわからない。自分のこと、子どものこと、家族のこと、履歴書の書き方、面接の受け方…、いろんな課題を抱えているみなさんのために、自己再発見と自己表現の方法を学ぶ講座です。好きな色はわかっているけど「自分に似合う色がわからない」という人がいます。この講座に出ると「自分らしさを人に伝える色」を見つけることもできます。仕事以外にも役に立ちますよ。

『ファミリーデー事例集』

仕事中心になっていないか？と問いかけた都の取り組み「ファミリーデー」に、のべ238社が参加した。同僚や部下の仕事以外の顔を知る機会になった。代表者や担当者の感想やアンケート結果も掲載されています。

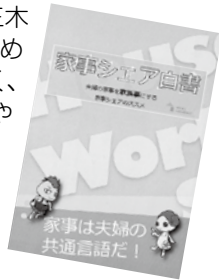


東京都産業労働局雇用就業部労働環境課 平成25年1月発行

『家事シェア白書』

夫婦の家事を家族事にする家事シェアのススメ

参画講座の講師も務めたことのある三木智有さんが、家事に関する白書をまとめました。データで実状を知るだけでなく、話し合いのきっかけとなるネタシートやワークシートも巻末に収録。



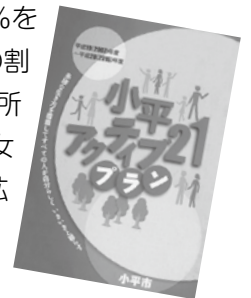
発行：NPO法人 tadaima!
定価：500円（税込）
問合せ：http://npotadaima.com

「小平アクティブプラン21」から

小平市でも女性の参画を進めています。

国の政治や会社の経営など、さまざまな場で政策や方針を決める過程に女性の参画を拡大することは、男女共同参画社会づくりの重要な課題です。小平市でも、女性を積極的に登用して男女の比率の差を縮める努力をしています。

平成25年4月1日現在、教育委員会など5つの行政委員会と43ある市の諮問機関などの委員に占める女性の割合は37.4%で、目標の30%を超え、市議会議員に占める女性の割合は29.6%です。しかし、市役所の管理職（課長職以上）に占める女性の割合は16.2%で、さらなる拡大が望まれています。



いちど
来てみませんか？

小平市男女共同参画センター

ひろく

(愛称)

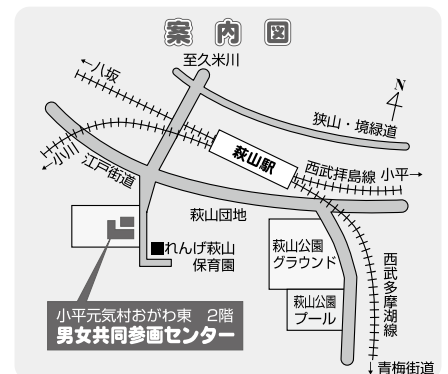
小平市男女共同参画センター

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1
小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (青少年センター兼用)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分
※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 利用登録団体・個人
- 問合せ先 次世代育成部青少年男女平等課
042-346-9618



小平市男女共同参画推進実行委員は、市報「こだいら」で募集します。

平成25年度女と男の参画講座 東日本大震災・被災地の今に学ぶ 防災・避難・復興

東日本大震災から2年半、被災地の今を知って、小平に起こったらどうするかを学ぶ講座です。12月7日「被災者の今」講師・伊藤まりさん（福島県浪岡町から横浜に避難している女性）、12月21日「被災地の今」講師・井出寿一さん（福島県川内村復興対策課課長）、1月11日「福島原発の今」講師・野村修也さん（中央大学法科大学院教授、弁護士）、1月18日「今、私たちは？」講師・佐藤良子さん（立川市大山自治会会長）
※いずれも中央公民館で、午後2時から開催します。

第17回 女と男のフォーラム報告

「あなたの働き方を変えてみませんか？」

～個人も組織も成長するワーク・ライフ・バランス～

講師：佐々木常夫さん（株東レ経営研究所特別顧問）

第17回女と男のフォーラムは、平成25年6月29日午後2時から、中央公民館ホールで行われました。今年も「男女共同参画週間」に実施され、150名ほどの市民が参加されましたが、ワーク・ライフ・バランスの第一人者である佐々木常夫さんを講師にお招きしたことで、例年に比べ30代、40代、男性の参加が多いようでした。



家庭の事情から働き方を変えざるを得なくなった佐々木さんが会社で行った改革は、仕事を理由に家庭を置き去りにしている多くの男性にとって簡単なことではありませんが、説得力があり、働き方を考え直す大きなヒントになったのではないのでしょうか？（き）

表紙作品 「in」 (アクリル絵具、LK カラー紙)

アーティスト：寺田 佳央（小平市小川町在住）
写真撮影：長塚 秀人

光沢のある真っ黒な紙に赤い絵具で描かれたのは、ブラシの軌跡だったり、人のかたちだったり…。「水を描く」ために始めたシリーズだというが、色の特性なのかそこには何か艶かしい、根源的な生命が闇から浮かび上がって来るように感じる。「水の特性を引き出し、軽やかにイメージを作る手法と素材」と語る様に、次々と制作された作品でスタジオの壁一面は埋め尽くされていた。

今回撮影を行ったのは武蔵野美術大学の近くにあるスタジオ密集エリアの

1棟の未来工房。ペインティングだけでなく彫刻や版画、家具など幅広いアーティスト達がスタジオを構える。11月には2年に1度行われる「オープンスタジオ」が開催されるという。普段はなかなか見ることができない制作の場や作品のアーティストに会えるこの機会にぜひお出かけを。

※寺田さんの作品は下記でご覧いただけます。

<http://kaoterada.com/>





『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。

『LEAN IN』 川本裕子(その他)村井章子 訳
シェリル・サンドバーグ著
＜日本経済新聞出版社＞
1,600円＋税



「女性の敵は女性」
「できる女は嫌われる」

残念ながら、これは現実かもしれない。
この本では、日常に潜む偏見や社会通念が
真の男女平等の実現を阻んでいることを、
客観的な実例やデータなどで示している。
それでも、著者はこう言う。

「女性よ、大志を抱こう」「手を挙げ続けよう」
「対話を続けよう」と。

組織の半分を女性が率い、家庭の半分を
男性が切り盛りする、そんな世の中が実現
すれば、次の世代の子どもたちに、個性を
最大限に尊重した選択肢を与えられるのだ、
と。

女性も男性も力を合わせてそんな社会の
実現を目指そう!と思える、必読の一冊だ。

『ビッグツリー(完全版)』
佐々木常夫著
＜WAVE出版＞
1,400円＋税



06年の初版ビッグツリー

出版記念パーティの写真が載っている。金
屏風の前で家族5人が揃って。「いつも暗く
てマイナス思考で」と、妻の浩子さんはス
ピーチをして拍手を浴びたそうだ。この家
族が生き残れたのは紙一重、と著者は言う
が運がよかつたのだろうか。

懸命に生きていくとき自分の本音に気付
く機会は少なく、また向き合うことは案外

厳しいことだ。
著者は出版準備を通し、「遺書」のつもり
で自分と家族を見つめ直した。本音が赤裸々
に綴られていて人間佐々木常夫がよくわか
る。

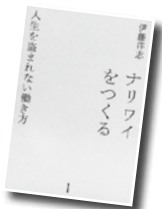
『日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー』
白井明大著
＜東邦出版＞
1,600円＋税



日本には、四季、二十四
節気、そして七十二候という旧暦をもと
にした季節がある。七十二候の候の名前
が、たとえば、秋分の初候のところでは
「雷乃声を収む」と、季節の出来事をそのま
ま名前しているのが面白い。

候のことは、自然現象、生きもの、草花、
旬の食べ物、年中行事などを、有賀一広さ
んのやさしい絵とともに、自然に寄りそい
暮らす日本人の生活を紹介している。詩の
一節や俳句、短歌も添えられている。日本
人の心の豊かさを知ることが出来る。先人
たちが、自然から受けた恩恵に感謝し、大
切にする暮らしぶりを、未来につなげてい
きたいという著者の思いが感じられる本だ。

『ナリワイをつくる 人生を盗まれない働き方』
伊藤洋志
＜東京書籍＞
1,300円＋税



「ナリワイ」とは、
時代劇のセリフのようだと思いがながら読み

始めた。「生業は、生活でもあり労働でもあ
り、…やっつけて楽しいこと」。「ライフと
ワークのバランスを考えるより、ライフと
ワークを矛盾のない形で近づけたい」と著
者は述べる。そして、「生活自給者」である
ことを推奨しながらナリワイのつくり方を
書き進める。

何かを考えることすらできないほど消耗
するなんて、生活ではない。副題の「人生
を盗まれない」はまさにその通りだ。合点
がいく。

『できた電気代600円生活』
はらみづほ著
＜北海道新聞社＞
1,300円＋税



いったいいつの時代かと
思うような驚愕の数字だが、実際実現して
いる人がいた。

コピーライターとして、時代の先端を走っ
ていたはらさんが、どういうわけかバック
パッカーになって6年間。世界中を歩き、
新しいものを買わずあるものを生かす。こ
れがこの世から戦争をなくし、しなくても
いい仕事をなくし、ついでに無駄なエネ
ルギーを減らすことだ、という結論にたどり
ついた。えっ!それがどうして600円の
電気代になるの?

謎を知りたければ、この本を読むべしだ
が、七面倒くさいことはごめんといい方は
は、まず冷蔵庫のプラグを抜いてみよう。
これだけで電気代は月1,000円以下にな
るそうだ。

行って みました

西国図書室

ネットで結構知られている「地域にひらかれた」自宅型図書室である西国図書室を訪ねました。



【室内】レトロな本棚、電球、タタミ…初対面なのに足を投げ出して坐っている自分に気がつく

■元洋装店

西国図書室は、西国分寺駅から北北西の方向に9分ほど歩きます。小平市からは自転車で20分から30分、国分寺市日吉町交差点を府中方向へ数分進みます。元洋装店の店舗だった部分を図書室として開放しています。ご近所へは町内会の回覧板で開室を知らせ、1年経った今では「元気でやってるかい」「はい」という関係ができたそうです。



オーナーの篠原靖弘さん

■トリセツ(利用の手引き)

西国図書室は会員になって利用します。会員になるには、年会費500円と読んでもらいたい自分の本を持っていきます。本を西国図書室に預けることを「本に旅をさせる」と呼んでいます。裏表紙に、所有者名や所有者にとっての「本とのなれそめ」「本のここがすてき」を記入します。誰の欄はニックネームでもよくて、それを本にちなんで「ブックネーム」と呼んでいました。持っていった冊数と同じ数だけ本を借りることが

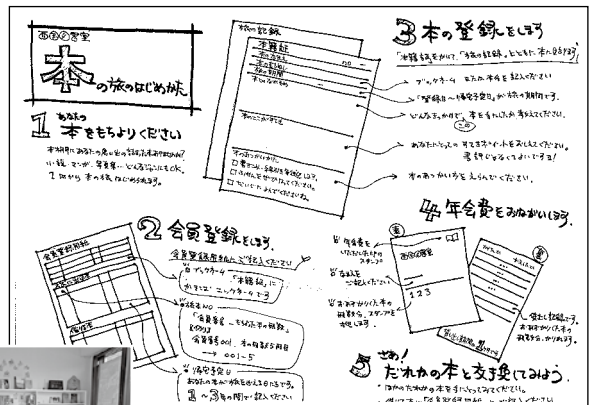


地域通貨ぶんじ

できます。そして、国分寺市の地域通貨である「ぶんじ」を3枚もらえます。本を1冊借りる時に100円を払うか、あるいは「ぶんじ」を1枚使うことができます。図書室に本が帰ってくる頃には、大勢の人たちの感想が裏表紙に貼られた紙に書かれています。篠原さんたちは会員カードを手作りをしていて、日付を表わす小さいゴム印や本を表わす消しゴム印を押してくれます。なんだか本当に学校の図書室みたいです。説明書は手書きと手描きで丁寧に作られています。(*右下)これらの仕組みを作ったのは篠原さんと知花さんです。お二人ともこの図書室にぴったりの方でした。

■居心地のよいところ

取材の日には、赤ちゃん連れも含めて4人の来館者がありました。「こんにちは」と言って上がり框から部屋に入ります。そして、気に入った場所に坐って本にまつわる話をしたり、本を手にとって読んだり…休日の午後を過ごしていました。篠原さんの「図書室なんだか談話室なんだか、わからなくなる」という言葉の通りでした。



「本の旅のはじめかた」説明書



自由な基準で本を分類

西国図書室

- ◆場所 国分寺市
- ◆HP <http://www.facebook.com/nishikokutosho>
- ◆e-mail nishikokutosho@me.com
- ◆不定期 日曜日 13:00~17:00

【行き方】

西国分寺駅から徒歩9分の住宅街角
小平市から：国分寺市日吉町交差点から府中方面に向かい、陸橋手前、右側角

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター「ひらく」、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(18館) 福祉会館、総合体育館、児童館、健康センター、市役所1F・2F、東部・西部出張所、郵便局(17か所) 市内各駅(7か所)、八坂駅、萩山駅、東大和市駅

- 小川町 多加楽、手作りクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし
- 小川西町 佐野商店、三田医院
- 小川東町 ギャラリー青らんぎ、長江宴、フレッドファクトリー 510、カフェ Air
- 上水本町 アトリエ・パンセ
- 津田町 ハタエコンサーン、ハーティハーティ
- 学園西町 ビューティーサロンサンローズ、百の豆木、梁里館、美容室ヘアグラッシュ、鈴木小児科、本間歯科
- ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん
- 学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、カシユカシユ、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je
- 美園町 多摩済生病院、ラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、きらら事務所と広場
- 御幸町 ケアタウン小平
- 鈴木町 和菓子の玉川屋
- 回田町 ヴェルデ
- 大沼町 がすミュージアム
- 花小金井 上原薬局、風のシンフォニー、辰砂、公立昭和病院

編集後記

● ワークライフバランスについて考えてみた。人生の楽しみ方は人それぞれ、働き方もいろいろだと思う。家族を犠牲にしない生き方をしなくては。(A)

● 「ひらく」の編集に初めてたずさわりました。編集作業の内容や流れがまったく分からず、私自身は校正作業という「トル」「ツメル」の世界でした。次回までに知識の向上を図りたいと思います。(Y・S)

● 今回初めて「ひらく」の編集に参加しました。参加しなければ出会えなかった人、知らなかった事実や視点に触れることができ、色々勉強させて頂いています。私の場合は、仕事と家庭にひらくの活動が加わることで、ちよつとバランスが取れました。ワークライフひらくバランス!!(A)



男女共同参画
社会基本法って何？
小平の市議会議員
28人に聞きました

『ひらく』のあゆみ

こんな風に「ひらく」を作っていました

『ひらく』表紙で 女性作家シリーズ、始まる

初めて表紙に現代美術作家の作品をとりあげる。賛否両論あったが多数決1票差で踏み切った。条件は◇小平に縁の深い作家◇女性の視点が生かされた作品◇小平市内で撮影。雲をつかむような「男女共同参画社会」を具体的にイメージ化するための挑戦だった。

子どもたちへアンケート

子どもたちが答えた男女平等意識アンケート調査はとても面白かった。男女平等なんてまだまだと思っていた私たちに、「男・女、どっちだっ
ていいんじゃない。話し合っ
て決めれば」と当たり前のように答えてくれた。13年経って大人になった今はどう？と聞いてみたい。



子どもたちが答えた
男女平等意識アンケート
男たちの座談会

★バックナンバーは、男女共同参画センター“ひらく”（小平元気村おがわ東2階）にあります。次世代育成部 青少年男女平等課にお問い合わせください。

ガールスカウト東京都 第176団

男女共同参画センター“ひらく”の登録団体の中からその活動内容を取材して伝えます。



富士山ビジターセンター玄関で

山の麓の山の中で行いました。キャンプの前にはサバイバル訓練をします。これは防災時の訓練としても非常に有効です。小平市子どもキャンプ場で4、5人のグループに分かれて、薪割り、立ちかまどづくり、家形テント張りなどをしました。

キャンプの食事は、子どもたちがこの日のために育てて収穫したじゃが芋を使いました。ピザ、ホイル焼き、ポテトサラダの他に、子どもたちが命名した「富士山カレー」は型どりご飯の周りにカレーを盛り付けたもの。大きい子どもから小さい子どもまでそれぞれに役割があり、リーダーの元に協力して用意をしました。

3泊4日の最終日は台風の接近で雨が降り、子どもたちは登山を希望しましたが、五合目で勇気ある決断をしました。下山し、富士吉田市にある富士山ビジターセンターでビデオを観たり、体験クイズをしたりして充実した時間を過ごしました（玄関前で記念撮影）。

1979年、小平市に東京都第176団として発団し、今年で35年になりました。地域に根付いた活動・人のためになる行動・自分を磨き責任ある行動がとれる、そのような女性に育ててほしいと願いながら、成人のボランティアに支えられ、日々活動しています。ガールスカウトはイギリス生まれの世界育ち、そして小平育ちです。

毎年キャンプをしますが、今年の世界遺産に認定された富士

◆ガールスカウト教育の特徴である パトロールシステム

- ・活動することで友情を育む(仲間意識)
- ・少人数の仲間の中で意見を述べるなど、安心して自己表現できる場となる
- ・メンバー一人ひとりに役割を設けることで役割を果たすことの大切さを学ぶ(責任感)
- ・協力する態度を身に付ける
- ・民主的な運営の手法(意志決定とそれを実行する方法)を学ぶ
- ・リーダーシップをとる力(技能)を身に付ける
- ・責任を取り、責任を分かち合うことを理解するなど



体験・見学随時大歓迎!!

おいしい「富士山カレー」で大満足

【主な活動】老人ホーム奉仕、難民支援、募金活動、救急法ほか 楽しい活動がいっぱい。

ひらく

第33号
平成25年10月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌「ひらく」部会

安食世津子 浦 綾 北川 紘二
酒井 愛 坂岸 真子 笹尾かをる
貞弘雄二郎 佐野 里美 谷原 裕子